

二松學舎 松苓会報



CONTENTS

- P2 コロナ禍での松苓会・二松学舎大学
- P3 令和2年度 第25回松苓会定期総会
- P6 松苓会各支部活動報告
北海道支部・青森県支部・岩手県支部・宮城県支部・栃木県支部・
群馬県支部・千葉県支部・埼玉県支部・東京都支部・神奈川県支部・
長野県支部・兵庫県支部・三重県支部
- P12 同期会・OBOG会
- P13 大学だより
- P15 学生、教職員“柏”全員集合
- P16 恩師からの便り 卒業生だより
- P18 会員からの便り
- P21 学生会員だより
- P23 松苓会からの案内
- P24 学生の活躍 訃報 編集後記

No.64 2020年10月20日
二松學舎大学同窓会広報誌

コロナ禍での松苓会活動



二松學舎松苓会
会長
廣田 克己

会員および関係者の皆さん、平素より「二松學舎松苓会」の活動にご理解とご支援をいただき、まことにありがとうございます。

続いております新型コロナウイルスの影響については、全国各地で状況や対応が異なると思いますが、いかがお過ごしでしょうか。また、頻発する集中豪雨などの災害で苦しむ会員の皆様にも、心よりお見舞い申し上げます。

中でもコロナ禍の学生会員への影響は想像以上のものであります。新入生は入学以来まだに一堂に会することもなく、先輩・同級生の顔も知らない状況で、夢に見た大学生活は送れています。4年生の就職活動はかつて経験したことのない手探りのものとなっております。また、学生諸君のアルバイトができないための経済的苦境はとて厳しく、今後の見通しも樂觀を許さない状況にあります。

す。本年度の松苓会は定期総会を書面の会議としたほか、ほとんどの事業を自粛しており、節約した経費200万円を学生会員のために寄付いたしました。今後も必要に応じて支援は惜しまないつもりです。会員の皆様にも余裕がありましたらぜひ寄付などのご協力をお願いいたします。

さて松苓会は、本年度から基本問題検討委員会答申の具現化に踏み出す予定でしたが、スタートから躓いた形になりました。しかし、コロナ禍によるリモートワークの定着やペーパーレス、キャッシュレスの普及などの新時代への移行が目前という状況は、強力な追い風になる可能性があります。これからは待たないかと考えます。これからは待たないかと考えます。これを利用した社会へと急速に進むこととなるはずですが、松苓会改革もこれまで以上に若い力が必要です。今年、昨年度の卒業生による「88同期会」がスタートしました。今後は毎年同期会が発足します。若い会員や学生会員の松苓会での活躍に大いに期待しています。

明けない夜はありません。コロナに負けずに頑張ります。

新型コロナウイルス感染禍での大学教育 ―二松学舎大学の対応



二松学舎大学
学長
江藤 茂博

各地の卒業生の皆様におかれましては、お元気で過ごしのことと存じます。また、この国境を超えた新型コロナウイルスの感染拡大は、産業社会の様々な面に大きな影響を与え、さらに私たちの日常生活の有り方までも変えてしまった感があります。

こうした社会的危機のなか、本学の教育活動も、学生の立ち入り禁止期間やその一部解除、施設内感染対策を施した上での対面授業等を実施しながら、基本的にはオンライン授業で春学期が終わりました。感染拡大のなか、特に都心に位置する本学の教育環境に応じた感染対策が特に必要となり、独自のガイドラインを定めることで、対面であるべき教育活動の質を劣化させることなく、かつ学生たちの安全に配慮したいと考えてきました。

秋の学期以降は、本学独自のこのガイドラインに沿って、基本的には

オンラインと対面の併用授業の実施を考えています。もちろん本学の教育としては対面授業が基本であり、学生たちが育つ場としてのキャンパス空間の重要性も認識しておりますが、それでも彼等への感染回避を配慮しなければなりません。キャンパススペースのみならず、出入り口等での密集性は、どの大学でも問題は同じではないでしょうか。この夏、私どもは、秋以降のオンライン授業のためのネット環境の整備、同じく対面授業時の飛沫感染防止と密環境回避の教室整備等の準備に追われてきました。

新型コロナウイルス感染拡大危機のなかで、秋冬の入学試験、さらに4月新学期の準備など、これまで経験してこなかった対応を、先が見えない社会変化のなかで行わなければならないかもしれません。見方を変えれば、狭いキャンパスのために本来活用すべきであったオンラインシステムがここに導入されました。また、資源としての柏キャンパスも再検討されています。来年度は、中国の大学の授業をオンラインで柏キャンパスに導入し、留学に近い学びの場を提供するつもりです。危機を好機に変えながら、大学としての教育の質は必ず守りたいと考えております。

令和2年度 第25回松苓会定期総会

令和2年度の定期総会は、6月13日(土)に予定しましたが、新型コロナウイルスの世界的感染の広がりという前代未聞の災禍に見まわれ、収束の見通しがつかず、やむなく中止せざるを得ませんでした。

そこで、松苓会本部では、定期総会の議案書を総会構成員に送付し、書面(議決権行使書)にて承認願うことと致しました。次に、議案の内容及び、議決権行使の結果を掲載いたします。

なお、当初予定していた、基本問題検討委員会答申の具現化をはかるための松苓会会則改正の議案は、次年度に送ることとしました。

〈議案の概要〉

第1号議案 令和元年度事業報告

年度末の「卒業生異業種交流会」(2月22日開催予定)が新型コロナウイルス禍により中止となったこと、3月7日開催予定の第5回常任幹事会を文書送付による開催に変更したほかは、ほぼ計画どおりに実施されました。

特に元年度においては、基本問題検討委員会答申を具現化するための部会活動が活発に行われ、新卒者の同期会結成に向けた取り組みや新規事業の検討などが行われました。

第2号議案 令和元年度収支決算報告並びに監査報告

経常費では、総収入が1695万円、1352円、支出が1411万7848円となり、後期への繰越が283万3504円となりました。

(5頁の決算書参照)

収支ともに、ほぼ予算どおりの執行となりました。

なお、金銭管理については、平成30年度の定期総会時の幹事会で預金口座数が多くないかとの指摘を受けていました。これまで特別会計毎に預金口座を設けていたのを変更し、口座を纏めるなど、またメガバンクを中心とした金融機関に預け替えるなど改善をはかりました。引き続き検討して参ります。

第3号議案 令和2年度事業方針並びに事業計画案

前年度に準じた事業方針並びに事業計画を立てていますが、コロナ禍により、大幅な変更(行事の中止等)が予想されます。

〈事業方針〉

二松學舎大学で学ぶ学生は、大学入学と同時に松苓会学生会員となり、卒業すると正会員となります。本学を単なる出身校ではなく、母校であるという思いに至る存在感のあ

る松苓会にしたい。会員一人一人を大切に、会員のための松苓会とすべく諸事業を推進していきます。

1. 「松苓会報」は、今年度は第64号(9月下旬)、第65号(3月中旬)を発行します。

2. 「卒業生交流事業」として、例年どおり、ホームカミングデー、卒業生異業種交流会、教員免許状更新講習受講者交流会を開催します。

3. 支部活動、同期会活動等の卒業生支援事業

(1) 支部活動振興のため、次のような施策のもとに活動を展開します。

① 支部助成は、昨年度と同様、支部運営助成費として、支部総会開催時の会場費、通信費、封筒等印刷費を助成します。他に、支部総会開催費として開催支部に2万円、支部分会開催の場合は、1万円を助成します。また、支部報発行助成費として、発行経費を3万円を上限として実費を助成します。

② 現在多くの支部が活動停滞状況にあります。今年度も、活動等を希望する支部と連携を取りながら、総会等の開催支援等を行います。

③ 大学が地方で開催する大学説明会等を活用した支部活動の推進

④ 支部総会等が未開催のうえ、本部総会欠席が長期にわたり(過去5年位)続いている支部に対し、引き続き積極的な働きかけを行っていきます。

議決権行使結果

- (1) 定期総会議案を8月12日付で総会構成員に郵送
- (2) 議決権総数(総会構成員) 77人
- (3) 議決権行使書提出者 71人
- (4) 議決権行使結果

議案	賛成	反対
第1号議案 令和元年度事業報告	71	0
第2号議案 令和元年度収支決算報告並びに監査報告	71	0
第3号議案 令和2年度事業方針並びに事業計画(案)	71	0
第4号議案 令和2年度予算案	71	0
第5号議案 大学のコロナ禍対応支援について	71	0

上記の結果、議案は承認されました。

(2) 同期会活動の支援

令和2年3月卒業生が同期会を結成しました。第88期同期会として活動を始めます。第88期同期会の組織強化のための支援を行っていきます。さらに、今後、毎年新卒者の同期会を組織するための支援をしてい

きます。

(3)卒業生の諸活動(前項の同期会とは別に既卒者の同期会、ゼミ会、サークル会等)に対する助成は、本年度も継続します(1団体原則10人以上出席、1万円の助成)。

4. 母校支援事業、在学生支援事業
(1)母校支援事業

本年度も、教育研究振興資金への寄付、大学行事の「論語の学校」「教育研究大会」「文芸コンクール」の後援、松苓会奨学金(給付)は、引き続き実施します。

(2)在学生教育支援助成

建学の精神を高揚するための自校教育や就職、教職支援講座など直接学生の教育に係る分野を支援するため設けた助成制度です。昨年は、就職支援講座を大学に提供しました。

また、学生食堂100円朝食提供を実施致しました。本年度も大学側からの申請に基づき実施します。

(3)「学生会員」活動の支援

一昨年度の総会で、松苓会の会員として学生会員を設けました。在学生中に松苓会の存在を認識してもらい、卒業後は正会員として松苓会活動への参加を期待しています。

すでに、学生の自治組織である学生会執行部との定期的な懇談、松苓会報編集委員会への学生会執行部参加、学生会執行委員会主催行事の見学などを通して、学生会との交流を図っていますが、学生会員が松苓会活動に参加できる場を更に模索して

いきます。本年度は、松苓会の存在を学生に周知するため入学記念品として松苓会のクリアファイル(5枚セット)を作製し、新入生に贈呈します。また、松苓会報表紙写真の募集も継続していきます。

5. 基本問題検討委員会の答申を具現化するための活動

平成31年3月2日に基本問題検討委員会答申(最終答申)があり、昨年度総会にその内容を報告いたしました。昨年度は、答申に示された内容を具現化するため、本部に具現化部会を設置し、検討を重ねてきました。引き続き部会での検討を経て、具現化を図ります。

6. 終身会費納入手続きの推進、寄付金募金活動の展開

7. 規程整備

松苓会に必要な規程整備を推進していきます。

第4号議案 令和2年度予算案

既に中止が決定している行事等もありませんが、前年度に準じて予算措置を講じました。しかし、第5号議案を考慮して予備費の金額を確保するため、例えば、運営費の、旅費・交通費では、総会中止を反映して減額計上とするなどしました。予備費には、264万1504円を計上しています。特別会計も前年度に準じた予算案です。奨学金の令和2年度給付奨学金は、4年次生の学費(授業料74万6千円、施設費25万円合計99万6千円)の半額支給 2人分

99万6千円を計上しています。(5頁の予算を参照)

99万6千円を計上しています。(5頁の予算を参照)

第5号議案 大学のコロナ禍対応支援について

今般のコロナ禍により、大学はオンラインを中心とした授業を展開しています。今後、次第に平常授業に回復されるものと思われませんが、オンラインに対応させるため、大学では「特別支援金制度」を創設し、学生1人当たり支援金5万円を支給しています。また、学生のアルバイト収入が途絶え、修学が困難な学生が出てくることも考えられます。これらのことを勘案し、松苓会として大学や学生に対する支援ができないか検討しました。大学側と協議し、年度予算の予備費から、200万円を大学に寄付することとしました。

支部長交代

長野県(令和2年7月26日付)

新 清水 登(文42)

前 関 保典(文35)

常任幹事委嘱

常任幹事(現幹事) 佐藤修(文41)

(令和2年9月19日付)

今年度初めての常任幹事会開催

コロナ禍により開催が延び延びとなっていた常任幹事会が令和2年9月19日(土)に大学九段4号館で開催された。昨年12月9日以来の開催である。

議事に先立ち、8月24日に逝去された北村博福島県支部長の霊に黙禱を捧げた。当日の議題は次のとおり。

(1) コロナ禍における本部の状況

(2) 定期総会議案の議決権行使書提出状況

(3) 松苓会報第64号の編集

(4) 松苓会本部業務担当者の募集

(5) 大学校舎1号館の石垣横に大学の沿革銘板(漢学塾、専門学

校跡地銘板)設置計画支援について

(6) その他

コロナ禍支援金目録贈呈

令和2年度予算が議決権行使書により承認されたのを受けて、10月6日(火)、大学のコロナ禍対応支援金として200万円の寄付金目録贈呈式が理事長室で行われ、廣田克己会長から水戸英則理事長に目録が贈呈された。



令和2年度 松苓会予算		(単位：円)	
令和2年4月1日～令和3年3月31日			
○ 収入の部			
前年度繰越金		2,833,504	
(会費)		3,650,000	
新卒者終身会費		9,600,000	
既卒者終身会費		400,000	
小奇雑収入		10,000,000	
雑収入		400,000	
合計		6,000	
合計		16,889,504	
○ 支出の部			
事業費			
松苓会報等発行			
印刷・制作費		700,000	
送付費		950,000	
発行費		0	
小計		1,650,000	
卒業生交流事業			
ホームカミング交流会		600,000	
卒業生異種交流会		300,000	
卒業生免許更新講習交流会		100,000	
小計		1,000,000	
卒業生支援事業			
支部運営補助費		1,300,000	
支部報強行助成費		300,000	
支部報強行助成費		100,000	
支部報強行助成費		100,000	
小計		1,800,000	
母校支援事業			
教育振興資金助成費		1,000,000	
教育振興資金助成費		150,000	
教育振興資金助成費		500,000	
小計		1,650,000	
在学生支援事業			
学園祭助成費		100,000	
学課外活助成費		200,000	
学課外活助成費		400,000	
学課外活助成費		850,000	
学課外活助成費		400,000	
小計		1,950,000	
運営費			
会費・議交通費		200,000	
旅費・業務通信費		1,000,000	
通用品印刷費		300,000	
消耗品		180,000	
消耗品		250,000	
消耗品		350,000	
消耗品		50,000	
消耗品		100,000	
消耗品		10,000	
消耗品		50,000	
消耗品		20,000	
小計		2,510,000	
特別会計			
周年事業積立金		1,000,000	
周年事業積立金		2,688,000	
周年事業積立金		3,688,000	
特別会計		2,641,504	
予備費			
合計		16,889,504	

令和2年度 松苓会特別会計予算		(単位：円)	
1 松苓会基金			
令和元年度からの繰越		2,000,355	
合計		2,000,355	
2 周年事業積立金			
令和元年度からの繰越		2,755,967	
令和2年度繰入		1,000,000	
合計		3,755,967	
3 終身会員積立金 (収入の部)			
令和元年度からの繰越		69,064,294	
令和2年度繰入		2,688,000	
合計		71,752,294	
(支出の部)			
終身会員サービス費(会報65号、印刷・制作費、発送費)		1,660,000	
合計		1,660,000	
4 松苓会奨学金 (収入の部)			
令和元年度からの繰越		8,144,395	
令和2年度繰入		500,000	
令和2年度貸与返還金		529,000	
利息		67	
合計		9,173,462	
(支出の部)			
令和元年度給付奨学金		996,000	

令和元年度 松苓会収支決算書		(単位：円)	
平成31年4月1日～令和2年3月31日			
○ 収入の部			
前年度繰越金		2,067,685	
(会費)		3,925,000	
新卒者終身会費		10,230,000	
既卒者終身会費		370,000	
小奇雑収入		10,600,000	
雑収入		338,760	
合計		19,907	
合計		16,951,352	
○ 支出の部			
事業費			
松苓会報等発行			
印刷・制作費		722,666	
送付費		808,001	
発行費		0	
小計		1,530,667	
卒業生交流事業			
ホームカミング交流会		553,175	
卒業生異種交流会		0	
卒業生免許更新講習交流会		60,060	
小計		613,235	
卒業生支援事業			
支部運営補助費		1,263,244	
支部報強行助成費		232,076	
支部報強行助成費		70,000	
支部報強行助成費		30,000	
小計		1,595,320	
母校支援事業			
教育振興資金助成費		1,000,000	
教育振興資金助成費		150,000	
教育振興資金助成費		500,000	
小計		1,650,000	
在学生支援事業			
学園祭助成費		100,000	
学課外活助成費		200,000	
学課外活助成費		368,000	
学課外活助成費		807,950	
学課外活助成費		178,416	
小計		1,654,366	
運営費			
会費・議交通費		149,438	
旅費・業務通信費		1,901,776	
通用品印刷費		292,000	
消耗品		147,483	
消耗品		241,763	
消耗品		345,922	
消耗品		47,533	
消耗品		42,550	
消耗品		0	
消耗品		41,395	
消耗品		0	
小計		3,209,860	
特別会計			
周年事業積立金		1,000,000	
周年事業積立金		2,864,400	
特別会計		3,864,400	
予備費			
合計		14,117,848	
○収支残高(次年度繰越)		2,833,504	

令和元年度 松苓会特別会計決算書		(単位：円)	
1 松苓会基金			
平成30年度からの繰越		2,000,343	
利息		12	
合計		2,000,355	
2 周年事業積立金			
平成30年度からの繰越		1,755,951	
令和元年度繰入		1,000,000	
利息		16	
合計		2,755,967	
3 終身会員積立金 (収入の部)			
平成30年度からの繰越		67,834,964	
令和元年度繰入		2,864,400	
利息		3,989	
合計		70,703,353	
(支出の部)			
終身会員サービス費(会報63号、印刷・制作費、発送費)		1,638,195	
手数料		864	
合計		1,639,059	
○収支残高(次年度繰越)		69,064,294	
4 松苓会奨学金 (収入の部)			
平成30年度からの繰越		7,680,328	
令和元年度繰入		500,000	
令和元年度貸与返還金		213,000	
利息		67	
合計		8,393,395	
(支出の部)			
令和元年度給付奨学金		249,000	
○収支残高(次年度繰越)		8,144,395	

会計監査報告書
 令和元年度(平成31年4月1日～令和2年3月31日)の会計執行状況について監査の結果、諸帳簿の整備、ならびに、金銭の管理状況は適正であり、収支に誤りのないことを認めたのでここに報告致します。
 令和2年7月31日
 二松學舎松苓会監事 小林 憲二 (印)
 二松學舎松苓会監事 田邊 義博 (印)

令和元年度会計収支決算は以上のとおりです。
 令和2年7月30日
 二松學舎松苓会会長 廣田 克己 (印)
 二松學舎松苓会事務局長 間宮 美喜 (印)

松茶会各支部活動報告

〔出席・参加者欄は敬称略〕

北海道支部

◆「書面決議」による支部総会

事務局長 若松顕仁

全国の松茶会員の皆様、お元気でいらっしゃいますか。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止にご尽力なさっている皆様に心から敬意を表します。

さて、北海道支部は例年8月に支部総会を開催して参りました。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大防止と支部会員の健康に万全を期す観点から、苦渋の決断ではありましたが「書面決議」をもって総会に代え、懇親会は延期することといたしました。今年も、本部役員様にご臨席いただく年であつただけに、残念でなりません。また、道南・道東・道北の各分会の実施については、今後の感染状況などを注意深く見守りながら対応していきたいと考えております。

そのような中で、空席となつていた道北分会の役員が決定したこと（次項に詳述）や、家庭学習の支援・充実の取組として授業動画を配信した支部会員の記事が新聞紙上に紹介されたことなどのニュースをお届けすることができました。

世情、穏やかならざる日々が続いておりますが、当支部規約にある「本会は、会員相互の親睦を図り思想学術の向上を資し、併せて母校の発展を期することを目的とする。」のもと、これからも取り組んで参ります。今後とも、北海道支部にご理解とご協力をいただきますようお願い申し上げます。疫病退散!!

◆道北分会を開催しました!

事務局長 若松顕仁

2月15日(土)旭川市「千年の宴・旭川駅前店」において、数年ぶりの道北分会が開催されました。北都・旭川はさすがの厳寒。吹雪にはなりませんでしたが(日頃の誰かの行いのお蔭)、ひたひたと道内に迫りくる新型コロナウイルスが猛威をふるう前に開催できたのは幸運でした(これも誰かのお蔭)。



旭川市「千年の宴・旭川駅前店」にて

支部役員を含めて7名。「道北分会の組織固めを!」ということと、分会長に吉野泰正さん(文55)、分会幹事に松林豪さん(文59)が選出・承認されました。以前より待ち望まれていた道北分会の分会長・幹事が決定し、いよいよ本格始動することとなりました。

お二人には業務ご多用の中、ご苦労をお掛けしますが、道北分会そして北海道支部発展のためにお力添えくださいますようお願い申し上げます。懇親会となりました。

- 〈参加者〉
 増井義昭(文39) 加藤哲朗(文55)
 吉野泰正(文55) 若松顕仁(文56)
 松林 豪(文59) 富永貴之(文65)
 佐々木伸(文74)

青森県支部

◆支部報告

支部長 柴垣博孝

今年も、県支部の集いを8月8日(土)に八戸プラザホテルにおいて開催する予定であつたが、コロナ禍により中止することとした。また支部報発行に関しても、前年度分については発行することができなかった。従つて、今年はこのままで、何の活動もできない状態である。

今後のことであるが、少なくとも支部報だけは発行すべく、会員の近況などを盛り込んで、編集していきたいと思つている。

支部活動が再開できてから5年になるが、この間、活動再開にご尽力くださった高杉勝昭氏(文34)、鴨沢和喜氏(文41)が鬼籍に入られた。このお二人の遺志を継ぐためにも、細々ながらも支部としての活動を続けていかなければと思つている。

県支部の集いには、例年10名前後の方が参加されているが、欲を言えば、現職の方を含めて更に多くの方々に参加して頂きたい。下北地区や津軽地区から参加して下さる方もいらっしゃるので、次年度(8月開催予定)の参加を考えて頂ければ幸いです。皆様と八戸でお会いできることを楽しみにしています。

岩手県支部

◆支部報告

支部長 宮本義孝

県支部の総会・懇親会は7月19日(日)に開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症予防のため今年度は中止することになりました。ただし中止は総会・懇親会のみで、その他の活動は例年と変わりなく実施するつもりです。

尚、当支部では去る6月21日、小山尊史さん(文27)を亡くしました。享年86歳でした。

県に支部が出来て45年になります。小山さんは一度も欠かすことなく総会には出席されてきました。会員数が多い関東圏とは違って、地方

の支部では若い人達の協力は、あまり得られません。支部活動を実際に支援しているのは、嘗て教職に在り、今は70歳代になった卒業生達です。如何に長寿国とはいっても、古稀を過ぎれば、いろいろ不都合が生じてきます。そして毎年一人、二人と彼岸へ旅立っていきます。

このままで5年たち、10年たった時、支部はどうなっているだろう。小山さんが亡くなったということ、は、会員一人が亡くなったということとだけでなく、将来に於ける支部の在りようも暗示しているように思えるのです。

◆支部報発行



- 第86号 令和元年9月10日発行
・懇親会で話題になったこと
「日韓関係に思うこと」
- 第87号 令和元年12月1日発行
・「三ツラントの行方」
- 第88号 令和2年1月15日発行
・わが住む街 滝沢の四季①
「岩大演習林脇の山道を歩く」
- 第89号 令和2年2月24日発行
・滝沢の四季② 「白鳥（旅立の時）」

- 第90号 令和2年4月3日発行
・滝沢の四季③ 「岩手山」
- 第91号 令和2年5月7日発行
・滝沢の四季④ 「三角山の一本桜」
- 第92号 令和2年6月4日発行
・街を歩く 本に出合う
- 第93号 令和2年6月27日発行
・小山尊史さんを送る

宮城県支部

◆支部報告

支部長 二上久芳
会員の天舛久美子さん（文52）の書作展が3月20日～22日の3日間、仙台市泉区のギャラリーで開催されました。終了後、支部に寄せられた葉書の本文を掲載させていただきます（本文中のカッコ書きは全て二上の補記）。

「3月20日～22日、私の書道塾（悠心庵）から二松學舎大学に進学した二人（千葉初音さん、堀内郁奈さん）の卒業（令和元年度）を機に、東京学芸大学書道科在学中の学生（2年、川口凜さん）の3人と共に、仙台市泉中央の書ギャラリー（親かめ子かめ）において4人展を開催いたしました。在塾の小・中・高校生の作品（全日本学生書道展出品作）も併せて展示し3日間で150人の方に見ていただきました。宮城県支部長二上先生、前支部長の千葉先生にもご来場いただき、二松學舎の懐かしいお話を伺え、大先輩とご縁がつながります。

した。今後
もご指導の
程よろしく
お願いいた
します。」

尚、宮城
県支部は年
末に総会を
予定してお
りませんが、
このコロナ
禍で、果し
て出来るか
どうか、非常
に危ぶまれる
ところでは
ないかと、



〔悠心庵の四人展会場にて〕左から、堀内さん、川口さん、天舛さん、二上、千葉さん

栃木県支部

◆文学散歩

支部長 寺内 進
令和2年2月16日（日）に栃木市内を舞台に文学散歩を実施した。当日は生憎の小雨模様ではあったが、会員5名と事務局1名、案内員1名の計7名で行動を共にした。

この地は徳川時代から巴波川を利用した江戸との舟運が盛んだった上、例幣使街道の宿場としても栄えたため裕福な商人が多かった。戦災もほとんど無く寺院や商家・土蔵も多く残り、現在では「蔵の街」「小京都」とも呼ばれたりしている。

案内をしてくださったのは「山本有三記念館」館長の大家幸一先生、先生は歴史・文学・書道等に造詣が

深く、教職を退いた後地元のホテル
ティア活動をされており、私の高校
の先輩でもある。

最初に見学をした「岡田記念館」は、現当主で26代という市内きつての旧家で、受け継がれる当主の名前はそのまま町名にもなっている。邸内には陣屋だった代官屋敷の他、庭園、茶室、書斎などがあり、武具甲冑・民具などと共に、富岡鐵斎が逗留した時の書画なども遺されており幅広い人脈と歴史の痕跡が如実に伝えられ見所豊富だ。さらに少し離れた「翁島」という大正期の別荘は、銘木を惜しみなく使い贅を極めた木造二階建てで、中でも樫の一枚板の廊下は10メートル以上もあり圧巻であった。

昼食をホテル・サンルートでとり、午後は「山本有三記念館」「ちぎ歌麿館」「山車会館」「蔵の街美術館」と回った。文豪・山本有三は此処で育っており、蔵書や文学資料に囲まれた中で『路傍の石』の話などをお話などがついていると、二松在学中の講義が蘇って松茶会員ならではの不



岡田記念館にて

・令和2年度千葉県支部総会の御案内
 ・令和2年度文学散歩の御案内
 ・令和元年度千葉県支部会費納入者御芳名

埼玉県支部

◆支部総会

支部長 青木一弥
 令和2年2月23日(日)正午より、東天紅大宮店を会場に、令和元年度埼玉県支部総会・懇親会を開催致しました。

本年度は、大学より江藤茂博学長、松茶会本部より廣田克己会長のご臨席を賜り、参加者総数25名で、例年どおり賑わいのある会となりました。

支部総会では、本年度の支部活動や次年度に向けた活動案等が無事承認されるとともに、江藤学長並びに廣田会長から、大学や松茶会についての近況を含め、支部活動に対する期待や励ましのお言葉をいただきました。また、総会内において、長年



東天紅大宮店にて

にわたり埼玉県支部会を牽引いただいた元支部長木村誠次氏に松茶会本部より感謝状が贈呈されました。

総会後の懇親会では、参加者全員から近況報告が行われ、和やかな雰囲気の中で支部会員相互の親睦を図ることができました。ここ数年は参加者も増え、今回は30名超えを目指して全ての日程を終了致しました。

今後参加しやすい埼玉県支部として、会員相互の連携を図りつつ、母校二松學舎大学の発展に寄与できる支部運営に努めたいと考えています。

〔参加者〕

- (来賓) 二松學舎大学学長 江藤茂博
- 二松學舎松茶会会長 廣田克己
- (支部会員)

- 小林公雄 (文38) 木村誠次(文39)
 - 中居功一 (文39) 持田賢一(文40)
 - 佐藤 修 (文41) 町田哲夫(文42)
 - 町田芳子 (文42) 福嶋辰美(文42)
 - 五十嵐清 (文44) 作村聖一(文44)
 - 柴田京子 (文45) 猪股賢治(文46)
 - 中山幸男 (文46) 青木一弥(文47)
 - 吉野昇之助(文47) 高砂光延(文48)
 - 石橋 亨 (文51) 小川伸一(文51)
 - 三好行雄 (文53) 江原新治(文54)
 - 小西明德 (文60) 田口博信(文63)
 - 清水 航 (文76)
- (追記) 埼玉県支部総会後、コロナ禍が世界中に広がり、学校教育はじめ大きな変化を私たちの日常にもたらし結果となりました。

東京都支部

◆支部報発行

支部長 矢澤喜成



何かとご苦労も多いことと存じますが、松茶会会員の皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

○第68号 令和2年9月1日発行
 ・皆様との再会を期して

支部長 矢澤喜成(文50)
 武漢肺炎は数箇月にして我々の日常を、世界の様相を一変させてしまいました。昨年の今頃には想像もしていなかった事態に、これからの世の中はどうなっていくのか、どう生きてゆけばよいか誰しもが不安に駆られる毎日です。東京支部も一年かけて計画してきた支部総会・講演会、文学・歴史散歩の中止を決定しました。焦眉の急に迫られ、数名の役員、本部の会長・副会長、近隣の支部長との相談・連絡のみとなつてしまいましたが、何よりも皆様の安全を第一に考えての苦渋の決断であることを御賢察下さい。今年度の活

動計画・予算もこの紙面での御承認を依頼する事になってしまいました。どが、何卒宜しく御願致します。どのような時代にあつても、己の為せる事をして前に進むしかないと思存します。皆様とまた楽しい一時を過ごせる事を期して已みません。

- ・生活圏の変化
- 副支部長 星野優子(文42)
- 「アマビエ」に祈りを
- 副支部長 大山由美子(文47)
- ・コロナ禍、三箇所での勤務
- 常任幹事 神河秀春(文47)
- ・日々、肅々と
- 常任幹事 島山幸治(文37)
- ・読書三昧(佐々木常夫氏の著書)
- 監事 渡辺大雄(文65)
- ・スポーツの力
- 常任幹事 高柳幸雄(文49)
- ・新生活の中で
- 常任幹事 荒屋陽子(文85)
- ・二松の風景
- 常任幹事 原由来恵(文63)
- ・活躍する卒業生
- 岩手・遠野から 新田泰嗣(政1)
- ・平成三十一年度
- ホームカミングデイ出品作品
- 「泊小湊城崎海岸」
- 修峰家永 修(文44) 書
- 二榴矢澤喜成(文50) 撰
- ・心を弾ませること
- 幹事長 片山聖英(文50)
- ・2019年度 二松學舎松茶会
- 東京支部会計報告

- ・2020年度 二松學舎松茶会
- ・東京支部予算(案)
- ・東京支部令和元年度活動報告
- ・東京支部令和二年度活動計画

神奈川県支部

◆コロナ禍で事業中止

支部長 平野光治

世界で注目されている『マスク』や『3密』のみならず流行語大賞候補を多く生み出しているコロナは行き過ぎた『正義感』『常識論』『当然論』により、人の心を惑わし、社会をむしばんでいます。そして、日本の『医療実態』『IT化』の真の姿が表面化して不安を助長し、人と人との関係の大切さや互いを認め合う心を奪い、個人の尊重という根本に禍をもたらしています。人として自分はどう生きていくのが問われている気がしています。

コロナ禍での『不要不急』『新しい生活様式』は神奈川県支部事業の実施に大きな壁となりました。単純に『人についたら責任が取れない』との思いが全てと言って良いかも知れません。

令和元年度に会員向けアンケートを実施し、令和2年度は支部運営の見直しを進める計画でしたが検討委員会・役員会が持てず、すべてが暗礁に乗り上げた状況です。小役員会(3人)を3回ほど実施し、総会・文学歴史探訪・賀詞交歓会の主事業

を中止とし、会計監査の実施と支部報の発行のみの実施を決定いたしました。

会員の皆さまには葉書で報告いたしました。支部報に令和元年度決算報告、会計監査報告、令和2年度予算案、令和元年度事業報告、令和2年度事業計画を掲載し、仮承認をお願いする予定です。正式には令和3年度総会にて最終承認をいただくことといたしました。

神奈川県支部事業が安心して実施できる時期に向けてやるべき準備を進める決意です。本年度のような緊急事態にどう対応していくかを含めて規約や申し合わせ事項の検討が必要と考えております。今後も二松學舎松茶会の皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。

最後になつてしまいました。神奈川県支部の事業実施検討等において東京支部並びに千葉支部の事業実施計画や諸文書を参考とさせていただきます。心よりお礼申し上げます。

長野県支部

◆支部総会

幹事 石川麻貴

平成31・令和元年度長野県支部総会が、去る7月25日(土)にホテル信濃路(長野市中御所岡田町)において開催されました。

本年は新型コロナウイルス感染

症拡大に伴い、大学、松茶会等のご来賓の出席はお願いせず、長野県内の会員6名での開催となりました。



「ホテル信濃路」にて

総会では平成31・令和元年度活動報告、会計報告、監査報告、さらに令和2年度予算案が満場一致で承認されました。さらに令和2・3年度の役員改選が行われ、新体制のもと気持ち新たにいたしました。

新型コロナウイルス感染症による影響は、支部総会の縮小、文学散歩の中止などにおよび、私たちの生活にも大きく変化が求められています。しかしながら顧問の関保典先生(文35)からは、「これからも長野支部会の新しいメンバーを積極的に獲得していきたい」という前向きな言葉や、新支部長の清水登先生(文42)からも「ワクワクするような企画・行事を開催していきたい」という力強い言葉をいただき、励まされました。

懇親会は開催せず、わずかな時間の支部総会となりましたが、年に一度の大切な時間であることに変わりはありませんでした。来年は落ち着

いた日常が戻り、賑やかな懇親会が開催できることを願いつつ、閉会しました。

- 〈参加者〉
- 関 保典 (文35) 清水 登 (文42)
 - 大工原明人(文42) 上平徳男(文51)
 - 江村春彦 (文57) 石川麻貴(文71)

◆支部報発行



○第31号 令和2年6月26日発行

- ・この世は 助け合い みんな繋がっている 支部長 関 保典
- ・訃報 嘉部益次先生のご逝去
- ・20世紀の個人的な記憶と長野、そして21世紀の二松學舎
- ・二松學舎大学学長 江藤茂博
- ・文学散歩 上伊奈・城下町高遠を巡る 副支部長 清水 登
- ・長野県支部総会について
- ・令和元年度活動報告
- ・令和2年度活動計画(案)
- ・令和元年度会計報告
- ・令和2年度予算(案)
- ・令和2・3年度役員(案)

兵庫県支部

◆支部活動の状況

支部長（近畿代表幹事）
武内昭徳

兵庫県は、人数も多く、広域なため、一同に会することが大変難しく、場所選定にも苦慮している状況で、現時点では、総会等は実施出来ていない。すぐに総会という形は無理だが、今後親睦を含めた見学研修、例えば、姫路城探索後に食事を実施するなどの計画を考えている。

なお姫路城探索の企画に関しては、兵庫県の会員のみならず、近畿地区、そして可能であれば、全国の支部長を通じて、全国の会員に働きかけを行う予定である。

私は、兵庫県支部長となり20年程経たず、定年退職後も有難いことに公立・私学ともにお声をかけて頂き、非常勤講師をやりながら兵庫県の松茶会のお世話と言う大役の上に、10年程前より近畿地区のお世話が加わり「二兎追う者は、一兎も得ず」の如く、全て中途半端となり、会員の皆さんには迷惑をかけている現状である。

私事ではあるが、コロナの影響で昨年度末3月から今年度5月までは、学校での授業は出来ず、教師生活初めて、在宅勤務を経験した。6月から、フェイスマスク及びマスク着用での授業が開始されたが、声が生徒にはつきり伝わり難い状態で、期

末考査のみで成績を付け、なんと一学期も終えた。現在は、夏季休業中であるが、二学期からの授業もどうなるかと言う状態である。

コロナの影響もあり、役員各位との連絡も取れず、まだ兵庫県としての総会は実施出来ていない。早くコロナが収束して欲しいものである。年に一度、近畿2府5県で行っている「近畿松茶会」の互礼会も、今年度は、実施出来ない状況である。

現在、兵庫県支部としては、具体的な活動は滞っているが、近畿松茶会の援助及び松茶会本部との連携を取りながら、前向きに活動していきたいと考えている。

三重県支部

◆支部総会

事務局長 加藤武俊

令和2年1月18日（土）午後6時より、「津ミートかしわざ」を会場に松茶会三重支部「朋友会」総会を開催しました。

参加者は10名でした。

小川支部長の挨拶に始まり、齋藤拙堂顕彰会主催の書道展についての報告がありました。

齋藤拙堂（1797～1865）は江戸末期の津藩の儒学者です。昌平校の古賀精里に学び、藩校有造館の督学となりました。二松學舎創設者三島中洲は、山田方谷に学んだ後、拙堂の文名を聞いて江戸遊学を止め拙

堂の門をたいたいています。

津市の偕楽公園内には中洲撰文の齋藤拙堂頌徳碑もあります。大学と三重の関係もとても身近に感じます。しかし、その碑も一般にはあまり知られていません。是非とも会で、散策する機会をとという話になりました。今般のコロナ禍で実現しておりません。



「津ミートかしわざ」にて

大学の授業もオンライン授業を主体にやっているようですが、新型コロナウィルス対策として、人が集まること、移動することが難しくなっています。人と人が直接あつて共感しあうことが容易でなくなっている中、総会もどのようにしていくか課題です。

（参加者）

- 稲垣武嗣（文33） 三林忠明（文34）
- 前野克二（文37） 伊藤淑子（文38）
- 山口由香（文38） 小川直紀（文44）
- 加藤武俊（文49） 納所佳子（文54）
- 竹嶋秀聡（文56） 岡部美由紀（文57）

松茶日誌抄

- 2月22日 卒業生異業種交流会中止
- 3月7日 第5回常任幹事会（議案書送付による書面での開催）
- 3月16日 卒業式中止
- 4月1日 学位記・卒業証書大学内の教室等で授与。卒業記念品（名刺入れ）、会報63号配布。
- 4月2日 入学式中止
- 4月2日 新入生への入学記念品贈呈（松茶会クリアファイル5枚セット）は、大学の配慮により郵送で配布
- 4月7日 12日まで大学休校（全学生、教職員）。校舎内立ち入り禁止
- 4月8日 政府の緊急事態宣言
- 4月13日 緊急事態宣言発令により休校を5月6日まで延期
- 4月13日 常任幹事会、定期総会の中止を常任幹事会メンバーに発送
- 4月30日 定期総会の中止を総会構成員に発送（はがき）
- 5月6日 大学構内立ち入り禁止を5月31日まで延期
- 5月30日 大学入校制限期間延長（学生、一般の方）5月25日から当面の間
- 6月13日 幹事会、定期総会中止
- 7月7日 三役会議、喫茶店ルノアール（校内立入禁止により）
- 7月21日 三役会議 4号館教室（松茶会室での三密をさけるため）
- 7月27日 三役会議 4号館教室
- 7月30日 廣田会長、江藤学長と懇談
- 7月31日 令和元年度会計監査
- 8月6日 三役会議 4号館教室
- 同日 松茶会報編集委員会 4号館教室
- 8月12日 定期総会議案書を構成員に送付
- 9月3日 三役会議 4号館教室
- 9月16日 ホームカミングデー実行委員会
- 9月19日 常任幹事会 4号館教室
- 9月26日 春セメスターの学位記授与式。文学部2人、国際政治経済学部2人卒業
- 10月6日 三役会議 1号館会議室
コロナ禍支援金目録贈呈式挙行

同期会・OBOG会

「二松剣」発行

船曳泰夫(文57)



二ユース速報!「北朝鮮がロケット発射。東京に打ち込む可能性」

もある。」という報道の中、私は東京の夜行バスの中でした。「まさかそんなことはない。しかし絶対ないとも言切れない。」私の頭と心の中はこんな事の繰り返しで、うとうとしかけたその時、「死ぬかもしれない。もし生きていたら何を大事に、何をしていこうか?」「そうだ、大学剣道部時代に作成した機関紙「二松剣」OB版を作ろう」がスーッと浮かんできました。

はじめまして。兵庫県瀬戸内の世界遺産姫路城と赤穂義士の町に挟まれた相生市に在住しています。卒業後31年が経ちました。田舎者が上京



学生時代の「二松剣」第6号 (昭和62年7月頃発行)



「二松剣」第8号

し、初心者同様で入部した剣道部、同期に恵まれ、素晴らしい先生・先輩・後輩といろんなあらゆる辛苦喜楽を共に過ごし、学業と書道にも自分のレベルで取り組んだ日々を思い出します。一年次には剣道部広報係として部内機関紙「二松剣」を担当していました。

当時私は新聞各紙の「題字・バック画」に興味を持っており、全国各地に行っては必ず新聞を買って収集していました。そこで題字の刷新に取り組み、当時教授の浦野俊則先生に題字を、バック画は同期で美術同好会の福本郁子さんに画いて頂きました。その作品を今でも使用できる事はありがたいです。

残念な事に伝統ある剣道部には正式なOB会は存在しません。最初は近い代の西日本OBを中心に郵送していました。その後ありがたいことに件数が増えていきましたが、今度は経費がかかる問題が。切手や現金の寄付で運営していた中、グループLINEアプリで登録以外の方のみ郵送する改善を行いました

限界があります。そういう中で松茶会事務局とご縁を頂いた中で、「いつでも・どこでも・誰でも」見れるホームページへの掲載を依頼させて頂きました。実現出来るかわかりませんが、私にとって素晴らしい学生時代、剣道部時代を過ごさせて頂いた事に感謝すると共に、この「二松剣」で少しでも皆様に喜んで頂きお返しが出来るように、正式なOB会設立を心待ちにして、今後出来る限り取り組んで参ろうと思っております。

現コロナ禍で大変な中、松茶会小林幹事長はじめ小林幹事(先輩)におかれましては松茶会報に掲載頂ける機会を与えて頂きましてありがとうございます。

最後になりますが、皆様方のご健勝を祈念致しますと共に、兵庫県には「たこ焼き・日本酒・牡蠣・うまいか等」美味がたくさんありますので、機会がありましたら是非お越し下さいませ。

- 〔編集部注〕「二松剣」OB版既刊号
- 第1号 平成30年5月15日発行
 - 第2号 平成30年9月25日発行
 - 第3号 平成31年1月1日発行
 - 第4号 令和元年5月15日発行
 - 第5号 令和元年9月15日発行
 - 第6号 令和2年1月1日発行
 - 第7号 令和2年5月10日発行
 - 第8号 令和2年9月1日発行

同期会、ゼミ・クラブのOBOG会を開催しませんか。

松茶会では、同期会、OBOG会の開催助成をしています。同期会、クラス・ゼミ・クラブ等のOBOG会を開催する場合は、松茶会本部に連絡してください。助成申請書を送りいたします。助成額は1万円。助成対象は、原則として10人以上参加。開催のための相談にも応じています。

松茶会報原稿募集

会員相互の交流、情報交換の場を積極的に提供するため、会員から原稿を募集しています。

内容は、会員の近況報告(例えば、こんな活動をしている、仕事をしている、書道などの「個展を開催する」)「開催した」「受賞した」、母校や恩師の思い出、漢詩・短歌・俳句などの文芸作品。同期会、ゼミ会、クラス会、クラブOBOG会を開催する、開催したなど。字数は800字程度まで。短信(50字位)でもかまいません。締切 特に定めません。会報は年2回(9月、3月)発行しておりますので、適宜掲載いたします。

大学だより

2020年度 入学試験結果

学部	試験種別	募集定員	志願者			受験者			合格者()内は異学生合格者			倍率	
			男	女	計	男	女	計	男	女	計		
文学部	推薦												
	一般推薦	60	38	64	102	38	64	102	24	53	77	1.32	
	特別推薦	160	83	106	189	83	106	189	83	106	189	1.00	
	A方式	70	244	243	487	237	240	477	55	64	119	4.01	
	B方式	40	296	221	517	294	218	512	36	45	81	6.32	
	S方式	20	59	54	113	59	54	113	8(8)	16(12)	24(20)	4.71	
	C方式センター利用方式	前期	30	201	253	454	201	253	454	28	61	89	5.10
		後期	15	159	139	298	159	139	298	14	12	26	11.46
	D方式	20	261	185	446	236	162	398	19	17	36	11.06	
	社会人	若干名	1	0	1	1	0	1	0	0	0	-	
外国人留学生	若干名	10	7	17	10	6	16	5	3	8	2.00		
海外教育経験者	若干名	0	2	2	0	2	2	0	1	1	2.00		
AO	25	59	90	149	55	84	139	9	28	37	3.76		
合計	440	1,411	1,364	2,775	1,373	1,328	2,701	281(8)	406(12)	687(20)	-		

学部の入学定員と入学者数

学部	学科	入学定員	入学者		
			男	女	計
文学部	国文学科	300	145	184	329
	中国文学科	90	38	65	103
	都市文化デザイン学科	50	25	28	53
	合計	440	208	277	485

学部	学科	入学定員	入学者		
			男	女	計
国際政治経済学部	国際政治経済学科	160	126	29	155
	国際経営学科	80	52	28	80
	合計	240	178	57	235

学部	試験種別	募集定員	志願者			受験者			合格者()内は異学生合格者			倍率	
			男	女	計	男	女	計	男	女	計		
国際政治経済学部	推薦												
	一般推薦	20	20	5	25	20	5	25	16	5	21	1.19	
	特別推薦	80	84	25	109	84	25	109	84	25	109	1.00	
	自己推薦	10	17	5	22	14	5	19	7	5	12	1.58	
	A方式	50	215	81	296	207	78	285	66(7)	27(3)	93(10)	3.06	
	B方式	30	277	68	345	267	66	333	45	13	58	5.74	
	C方式センター利用方式	前期	20	253	114	367	253	114	367	56	38	94	3.90
		後期	10	93	23	116	93	23	116	16	3	19	6.11
	D方式	10	112	31	143	94	26	120	34	9	43	2.79	
	社会人	若干名	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	
外国人留学生	秋季	8	7	15	7	7	14	2	3	5	2.80		
	春季	10	18	14	32	15	13	28	4	3	7	4.00	
海外教育経験者	1	0	1	1	0	1	1	0	1	1	1.00		
合計	240	1,098	373	1,471	1,055	362	1,417	331(7)	131(3)	462(10)	-		

学部入試種別ごとの志願・受験・合格・入学者数

学部	試験種別	募集定員	志願者	受験者	合格者	入学者
文学部	推薦					
	附属高校	220	37	37	37	37
	附属以外		254	254	229	229
	一般入試	195	2,315	2,252	375	174
	AO入試	25	149	139	37	37
その他特別入試等	若干名	20	19	9	8	
合計	440	2,775	2,701	687	485	

学部	試験種別	募集定員	志願者	受験者	合格者	入学者
国際政治経済学部	推薦					
	附属高校	100	23	23	23	22
	附属以外		133	130	119	118
	一般入試	120	1,267	1,221	307	87
その他特別入試等	20	48	43	13	8	
合計	240	1,471	1,417	462	235	

※特別推薦は、指定校・産後校・附属校の各推薦入試。
 ※文学部一般推薦には、中国文学科科目推薦(国語:志願16・受験16・合格6、中国語:志願4・受験4・合格4、韓国語:志願1・受験1・合格1)を含む。

二松学舎大学

12/12日 13:00~16:00 (予定)

1,000名様

渋沢栄一『論語と算盤』から生まれる未来

新一万円札の肖像となることが決定した渋沢栄一は、二松学舎の創立者・三島中洲との縁が深く、第三代会長も務めました。渋沢の著書『論語と算盤』に焦点をあて、見えない未来を豊かにするために私たちはそこから何を学び、どう生きるべきかを考えます。“渋沢栄一アンドロイド”も登場します。

講演者 **井上 潤氏**
 渋沢史料館館長

パネルディスカッション

井上館長や渋沢・漱石両アンドロイドの開発者、石黒浩大阪大学教授らと交え『論語と算盤』がつなげる未来への新しい学びを話し合います。

LIVE インターネットライブ配信 限定開催

インターネットを利用したライブ配信のみで開催します。渋沢アンドロイドと漱石アンドロイドの初共演による特別講座『論語と算盤』もご覧いただけます。



いのうえ・じゅん◎1959年生まれ、大阪府出身。1984年明治大学文学部史学地理学科日本史学専攻卒業。同年に渋沢史料館学芸員となる。2004年より渋沢史料館館長。「渋沢栄一—近代日本社会の創造者」他、著書多数。

朝日教育会議2020を開催
 〈参加者募集〉募集締切11月26日(土)
 「渋沢栄一『論語と算盤』から生まれる未来」のテーマで
 12月12日(土)にライブ配信。
 参加申し込みは「朝日教育会議」の公式ホームページ
<https://aef.asahi.com/2020> から応募フォームページに
 入り、必要事項を記入。
 (朝日新聞) 9月11日付

出身都道府県別在籍者数

〈地域別在籍者数〉

(2020年5月1日現在) (人)

	北海道	東北	関東	甲信越	東海	北陸	近畿	中国	四国	九州沖縄	その他
文学部	10	54	1,731	55	40	6	6	12	12	15	10
国際政治経済学部	3	13	892	21	16	4	5	7	5	13	46
計	13	67	2,623	76	56	10	11	19	17	28	56
	0.44%	2.25%	88.14%	2.55%	1.88%	0.34%	0.37%	0.64%	0.57%	0.94%	1.88%

〈都道府県別在籍者数〉

(2020年5月1日現在) (人)

	1年	2年	3年	4年	合計		1年	2年	3年	4年	合計
北海道	2	2	3	6	13	滋賀県	0	0	0	0	0
青森県	2	2	2	3	9	京都府	1	0	0	0	1
岩手県	3	2	1	1	7	大阪府	0	1	0	2	3
宮城県	2	4	5	4	15	兵庫県	1	1	1	2	5
秋田県	1	0	1	0	2	奈良県	0	1	0	0	1
山形県	2	3	1	3	9	和歌山県	1	0	0	0	1
福島県	7	4	8	6	25	鳥取県	3	2	0	1	6
茨城県	50	46	45	31	172	島根県	1	4	0	0	5
栃木県	10	8	13	10	41	岡山県	1	0	2	0	3
群馬県	8	9	5	8	30	広島県	1	0	1	1	3
埼玉県	112	135	129	124	500	山口県	0	1	0	1	2
千葉県	201	213	216	196	826	徳島県	1	0	0	1	2
東京都	179	205	198	184	766	香川県	1	2	1	1	5
神奈川県	69	80	70	69	288	愛媛県	2	3	0	2	7
新潟県	9	3	10	7	29	高知県	1	0	0	2	3
富山県	0	0	0	4	4	福岡県	1	1	2	4	8
石川県	0	1	2	2	5	佐賀県	1	0	1	0	2
福井県	1	0	0	0	1	長崎県	0	0	0	0	0
山梨県	0	1	1	1	3	熊本県	3	1	0	0	4
長野県	15	8	14	7	44	大分県	1	0	0	0	1
岐阜県	0	1	0	0	1	宮崎県	0	1	1	2	4
静岡県	12	8	10	15	45	鹿児島県	1	0	1	2	4
愛知県	0	2	2	1	5	沖縄県	2	0	1	2	5
三重県	0	0	3	2	5	その他	14	15	16	11	56
						合計	722	770	766	718	2,976

2020年度二松学舎大学ホームカミングデー

今年は特設サイト（ホームページ）で開催

今回で16回目を迎えるホームカミングデーは、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、従来の卒業生を母校に招いての企画は中止といたします。新たな試みとして、松苓会ホームページにホームカミングデー特設サイトを開設し、動画配信による大学学長、教員からのメッセージ、大学の近況報告、さらに卒業生の皆様からの応募による「なんでもWeb写真展」など、お楽しみいただけるコンテンツを用意いたします。自宅のパソコン、スマートフォン、タブレット端末からアクセスしてご参加ください。

11月上旬公開予定（約2カ月間） 詳細は同封のチラシで確認してください。

学生、教職員、柏、全員集合
2002・2003年

志村 孝(文59)

その2年間の仕事は、毎朝、台車を押しながら、2号館1階の学生ホールの見回りから始まるのである。これは、学生がくる前に限る。

300席ぐらいの学生ホールには、テーブルの上にサークルの縄張りを示す学生手作りのプレートがところ狭しと立ち並んでいた。クラブには、部室が割り当てられていたが、サークル、ことに非公認サークルとなると居場所がないので、こうなるのである。学生たちは、公然と特定の場所を占拠して、マンガ本、週刊誌、教科書、ノート、そして怪しげな物まで置いていく。取られて無くならないのかと心配するが、そんなのは、どこ吹く風だ。

こちらは、占拠など許してたまるか、職員数人で隅から隅まですべて回収して、毎朝、台車2台分の収穫を1号館1階の事務室に運び込む。

そうこうしているうちに、学生をすし詰めにしたスクールバスが、校門前に次々に到着する。こちらは、事務所から、その様子を見ている。ドアが開き、解放される姿は、通勤電車のサラリーマンと重なった。

「すみません。これ僕の物なんです。学生が、おぼろげと言ってくる。回収した物は、学生から見えるように事務室に置いておくのだ。

注意しても、次の朝には、しつかり台車2台戻っていたが、小言の一つも職員にとっては、学生との挨拶のようなものだった。



2002年、2003年、柏キャンパスに2学部3学科の全学生が集合した。これは創立125周年の記念事業の一環として現在の九段キャンパスを建て替えたためである。

建て替えの間、都内の空きビルを仮校舎にするという案もあったが、大学院の授業を湯島聖堂の一角を間借りした以外は、学部生のすべてを柏キャンパスに集めたのである。

現今のコロナウイルス感染症対策のためのオンライン授業で、学生のいない寂しい九段のキャンパスを見ると、当時、窮屈でも一つの空間で学生、教員、職員、その他の関係者が一堂に会して、大学を創っていたのは、幸せなことだったのだと実感する。全学年が揃った学生達、あらゆる意味で活力がみなぎっていた。いろんなことを言ってきたし、こちらにも応えることができた。2002年は丁度、日韓ワールドカップの時に、学生ホールを、今というパブリックビューイングにして、学生、教職員で、わあーわあーとやったのである。

当時は、教務課と学生課が合体し

て教務課となり、大地武雄学務局長のもと小林公雄学務局次長、五十嵐清教学部長、高柳幸雄副部长、大湖俊明課長、課員には、高橋良子、平田恵、小西明徳、馬淵裕之、山崎修、榎原あづさ、島田穂隆、室井宏之、坪井貴子、山口千鶴の諸氏と志村が在籍しており、大所帯となっていた。

我々職員は、授業がはじまり、ほつとすると、今では考えられないが、事務室と廊下を挟んだ場所にある講師室に滑り込む。講師室には、喫煙室があり、プカーと一服休憩するのである。そうこうしていると、事務室からお呼びがかかる。

近所のうなぎ屋さん(ここのご主人には特に迷惑をかけた)からの電話である。学生の無断駐車だ。車の通学は禁止していたが、例のすし詰めのバスを嫌って、違反が絶えなかったのである。それで、近所の住民に迷惑はかけられないと、大学の公用車を使って、農道や森の中を見回りをしようになった。

最初はひどい剣幕で「大学は何やってるんだ。いい加減にしろ」なんてよく言われたが、訪ねてお詫びして、車で学生と追いかけてこをしていううちに、近所の農家のおじさんから「あんたらも大変だよな」とか、一人暮らしのおばあちゃんの話し相手になるようになる。今は、大学の付近もだいたい宅地化が進んだようだが、その頃はのんびりとした田舎だったから、鍵をかけているよう

な家は少なく、どこの家でも開けっ広げだった。こちらも調子に乗って、縁側に腰掛けてお茶を一杯いただく、そんな関係が近所で何件もできると、終いには、一人暮らしのおばあちゃんの娘さんから大学に連絡があつて、「今朝から、おばあちゃんが電話に出ないから見に行ってもらえますか」となる。おばあちゃんが名刺を娘に預けたのだった。ここまでするとさすがに大



学職員の域を超えていた。とまあこんな調子で、一日があつた。この間に過ぎ

この頃、学生会の代表を務めたのが、また、いい男であった。ある時、この男に呼び出されて、何の話かと思つたら、学園祭の呼び名を「学舎祭(がくしゃさい)」から「創縁祭(そうえんさい)」にしたいと言う。当時の上司が、簡単に頷くわけがない。私は、取り敢えずサブタイトルにでもして：と言った記憶があるが、今となつては、「学舎祭」なんて呼び名は、消えてしまっているのだから、まあ、何とかうまくやったものだ。この2年間は、学生たちも(自分たちも)お祭りのような2年間であった。(二松学舎大学総務・人事部長)

恩師からの便り

私の近況

金子 茂

新型コロナウイルス感染症が中国武漢で発生（2019年12月）し、これほどまでに世界的大流行・パンデミックになるとは想像できませんでした。まさに21世紀の人類を脅かす感染症です。2020年9月14日現在、全世界の感染者は2887万人を超え、死亡者は92万人を超えています。日本の感染者は75657人、死亡者は1442人です（厚生労働省の感染症統計）。

5月25日の緊急事態宣言解除後、全国的には第2波の感染者が徐々に拡大し、7月末から8月上旬でピークに、以降9月に入っても緩やかに感染減少傾向へと推移していると、専門家は見ています。早期のコロナ感染症の収束は全人類の願いです



が、今後秋から冬に向かつて感染が第3波、第4波へと推移していくのか、いつコロナが収束するのかは全く予断を許しません。

松茶会の現職の皆さんは「WiFi コロナ」時代になり、テレワーク・ローテーション勤務・時差通勤等を駆使しながら、仕事の特性にあった多様な働き方をされていると思います。感染しない、させないために3密（密集、密接、密閉）を避け、マスク着用、手洗い、消毒、ソーシャルディスタンス等の感染予防対策が必須です。更には「新しい生活様式」の実践例（厚生労働省5月4日発表）等を踏まえて社会生活における様々な不安、混乱、困難などを乗り越えてください。

次に、私の近況の一端を記します。退職後7年目になりました（77歳）。4月上旬には結婚50周年を娘家族の住むアリゾナ州で迎えるための準備を整えていましたが、残念ながら取りやめになりました。続いて、居住内や地域の防災活動・行事等では役員としてボランティア活動に参じていますが、活動は休止状態です。自ずと行動範囲も狭まり巣ごもりのような生活です。したがって、新聞、雑誌、本を読んだり、俳句を作ったり（最近、近所での月一句会も再開）、TV、DVD、YouTubeを見たり、自転車で散歩したり、アリゾナの娘家族とよくスカイプしたりしています。特に健康維持・増進などへの関

心度が増しています。

そこで、私がストレッチング体操の他に日課として程々に実践している「一読、十笑、百吸、千字、万歩」のことを記します。これは医師の石川恭三教授（杏林大学）が「続・健康ちよつといひ話」（1998）、集英社文庫、65+69頁で述べたことですが、担当した「健康スポーツ科学」の授業でもよく引き合いに出しました。話は「健康でボケずに長生きするための知恵」という内容です。それでは「一読、十笑、百吸、千字、万歩」の語意の要点を見ていきます。

- 一読・一日に一度は少し堅めの文章や社説等を読みましょう。
- 十笑・一日に10回は大笑いをしてましょう。
- 百吸・一日に100回は深呼吸をしましょう。
- 千字・一日に千字位の文字（日記など）を書きましょう。
- 万歩・一日に一万歩は歩きましょう（私は5000歩程のスロー・ジョギングや歩行を行なっています）。

以上、この話題は健康法の一環として誰にでも応用できるものです。興味のある方は無理なく挑戦されることをお勧めします。

最後に、松茶会の皆様のさらなるご健勝と活躍をお祈り申し上げます。（名誉教授）

卒業生だより

大西邦美氏（文40）
「旭日中綬章」受章



令和2年春の叙勲において、昭和47年3月卒業の大西邦美氏が旭日中綬章を受章されました。

大西氏は、昭和50年4月、25歳で香川県牟礼町議会議員に最年少で当選。昭和54年4月、香川県議会議員に29歳県下最年少で当選。以来8期連続当選を果たし、36年間の議員生活を送られました。

平成17年には、藍綬褒章（地方自治功績）を受章し、今回は旭日中綬章の受章となりました。

大西氏は、平成17年12月から松茶会香川県支部長を務められています。

「25歳で『世の中を変えたい』という想い、情熱だけで政治の世界にはいりました。選挙は町議選を含め9回。想像を絶する過酷な世界に非才な私を支えてくれた、この力の結晶こそが今回の受章につながったと思っています。

議員というのは将来を展望した政策提言や、夢を語らなければなりません。同時に公平性公正さが求められており、社会の矛盾を是正していかなければなりません。また、有権者との接点も大切で活動報告も大切な仕事。こうしたことは、当時大学で学んだ飯塚友一郎ゼミの『伝統文化を含むあらゆるものを既存のもの

に捉われない視点』。教授の推奨するアーノルドJ・トインビーの『未来を生きる』などに書かれた基本理念が、36年間の議員生活に生かされたと思っっています。

『二松學舎』は四国香川では知名

度が低い。その分私なりに知名度アップに努めたい。こんな意識で議会活動に情熱を捧げてきました。これからも二松學舎の卒業生がいろんな形で社会貢献され、大きく羽ばたいてくれることを期待しています。』

※この欄の記事について

この欄には読売新聞2020（令和2）年4月30日朝刊に掲載された富樫信浩氏（新潟県高等学校野球連盟会長）の取材記事「コロナに克つ 8」「自分を見つめ直す時間に」を読売新聞社の許可を得て掲載しております。本会ホームページ掲載については、著作権の2次使用にあたるためHP上では削除しています。お読みになりたい方は本誌第64号をご覧ください。

内容は、新型コロナウイルスの感染拡大で部活動の制限が余儀なくされている状況下での高校野球の見直し（春の選抜大会中止を踏まえた、夏の大会の見直し等）や、野球部員の心構え等について、県高野連の会長として記者の取材に応えた内容です。

富樫信浩氏は、二松學舎大学を1984（昭和59）年3月卒業（52文）。卒業後新潟県の公立高校教諭。95年には、六日町高、2001年に十日町高でそれぞれ部長として夏の甲子園大会に出場に貢献。18年に県高野連の会長に就任。21年3月新潟東高校長定年、4月新潟県野球協議会理事長就任。二松學舎大学在学当時は軟式野球部に所属。

（松苓会事務局 2022年11月）

小川英子さん（文40）

『王の祭り』刊行

昭和47年3月卒業の、小川英子さんがゴブリン書房から本年4月児童文学『王の祭り』を出版した。16世紀のイングランドと日本を舞台に、〈時〉と〈処〉を超えて繰り広げられる、壮大な歴史ファンタジー。

小川さんは、「世界一おいしい……」でカネボウ・ミセス童話大賞優秀賞、「ピアニヤン」で講談社児童文学新人賞、「くらひめさま」で児童文学ファンタジー大賞奨励賞などを受賞。著書に『あけちゃダメ』『山ばあばと影オオカミ』（新日本出版社）『ピアニヤン』（講談社）などがある。



二松學舎大学附属図書館（九段校舎）掲示板で紹介された卒業生の刊行図書です。

- ① 辰巳正明（文36）著『大伴旅人』〔令和〕を開いた万葉集の歌人 新典社
- ② 藪 敏彦（文51）著『毛詩』の文献学的研究 ―出土文献との比較を中心に― 汲古書院

③ 小澤洋子（文修36）『源氏物語』―忘れ得ぬ初恋と懸隔の恋 新典社

- ④ 保科 恵（文58）『入門 平安文学の読み方』新典社
- ⑤ 寺内 進（文49）復刻「百家通用文章大全」 素真洞編



会員からの便り

思い出すものは

上田善達 (文38)

平成18年3月に愛媛県立丹原高校で定年退職を迎え、70歳まで専門学校に勤務していた。現在、縁あって、中高一貫校で非常勤講師として勤めている。

高校3年の折、肺結核で国立愛媛療養所で療養生活を送った私は、元気でこの年齢を迎えることができるとは思ってもいなかった。当時、肺結核は不治の病と言われていた。医学の進歩により、生かされてきた。

今は孫のような年齢の生徒を相手に古典や剣道を指導し、4年目に入った。24歳で母校の長浜高校赴任から、教員歴も50年を過ぎたが、それぞれ地域の方や生徒と先生に恵まれ、支えられた日々であった。学生時代、吟詠サークルの松吟会



平成30年12月種子島の旅にて

に所属していた。松吟会は2つの連盟に加盟していた。全国学生詩吟連盟と緑村吟詠会学生部である。それぞれの組織で先輩方が役員として活躍されていた。その影響により部活動に熱中した。その連盟活動の経験が後に役立つ。

新採の頃、生徒会担当として、組織の運営など役員の指導に生かされた。また、漢文の授業では、「春望」や「春曉」などの漢詩を解釈鑑賞の後、朗詠すると興味関心を示した。同窓会などで教え子たちが懐かしく話してくれるのは、教師冥利に尽きる。

当時の仲間たちとは連絡を取り合っていない。「緑友会」を開催している。その初めは平成3年に静岡で実施した。その後、幹事役を持ち回りで、8年京都、14年鹿児島、18年愛媛、22年千葉、26年信州、28年熱海、30年種子島と実施してきた。

老いし九人南の島の小春かな

これは、種子島大会の幹事国上明君の俳句であるが、何歳になっても、学生時代ともに過ごし、苦楽をともにした仲間は、会うとすぐに満面の笑顔で会話が弾む。種子島でもそうであった。郷土料理や美味な酒を飲み、宇宙センターや鉄砲館など見学先も多彩で、癒され、心豊かになる、楽しい2泊3日の旅であった。

今年、9回目の会合を関東地方で開催予定であったが、コロナ禍のため、延期を余儀なくされた。早く終

息して、安心して旅ができるようになってほしいと心から願ひ、皆様のご健勝とご活躍を祈ります。

私の二松學舎

村松愼介(号・太子)(文39)



私の入学期の昭和42年4月は加藤常賢先生が学長だった。加藤先生は昭和45年12月に出版された、あの有名な『漢字の起原』を執筆した先生である。

私の在学中、学長講義が必ずあり大きな教室が満員となり、先生が恐いのでシーンとした中で講義が進められ、とてもわかり易く記憶に残る時間だったことを思い出す。

私が専門とする書道にとっても、加藤先生の研究が頼りになり、今でも私にとりその『漢字の起原』は必需品である。

二松學舎大は国文・中文を学ぶ場として有名だが、書道でも俊英を輩出している。私の当時は石橋犀水・金子清超・鈴木竹影先生が指導陣であった。

石橋犀水先生は貫名菘翁研究で有名で手紙文字は菘翁本人の書と見違うばかりの見事さであった。

金子清超先生は筆力を内に込めた清廉な書風で襟を正される書表現であった。

鈴木竹影先生は粘葉本和漢朗詠集を丹念に追及され温雅な仮名の書に優れておられた。

先生方のお蔭で昭和45年10月に開催された栃木県教育委員会主催の教員採用試験には無事合格させて戴き、翌年4月には栃木県高等学校芸術科書道教諭として教壇に立つことができ、以来38年間5校の高校の書道教員を歴任し、11年前定年退職後、「書・太子塾」を主宰している。

私の書の師は(公財)独立書人団で活躍された山崎大抱で顔真卿の書を骨格としている。私も顔真卿の書とんだ。とりわけ行書体で率意の書として著名な争坐位稿を中心に学書した。

その成果を示そうと、平成元年5月、40歳の折、東京の銀座アートホールで所属する抱一会の企画として個展を開催した。この個展の経験が更に私を書に傾倒させた。「生きることは書を書くこと、書を書くことは生きること」として、相変わらず未熟のままだが書道人生を続けている。これは総てあの二松の4年間で私の柱となって支えてくれている。

(現在)

第15代栃木県書道連盟会長



下野新聞社発行本の題字

(公財) 独立書人団常務理事／
 一会副理事長／毎日書道展審査会
 員／日新社主宰／素敵会主宰／
 書・太子塾主宰

人生をさらに輝かせる

中山幸男(文46)

「皆さんこんにちは」。私は65歳、世にいわれる前期高齢者・国民年金受給者となりました。5年前に定年を迎えたとき「人生、まだまだこれから」と自分へのご褒美と見聞を広めるために、まずアメリカ、ボストン・ニューヨーク・ワシントンの美術館・博物館巡りを企画。アメリカの友人の案内で連れ合いと共に旅をしました。その後、中国、インドネシア、次はヨーロッパ諸国と計画していたところ、ストップ!

私の住む町、埼玉県深谷市は「深谷ネギ」「ふつかちゃん(ふるさとキャラ)」が、昨年「新巻万円の肖像・澁澤榮一(以後は新字体)」の生誕地、次期NHK大河ドラマ「天を衝(つ)く」の撮影地などと楽しい話題を提供しています。「渋沢榮



一記念館」には、我母校の「第三代舎長」の紹介と「学舎史」も展示されています。新たに今年5月より、二松學舎大学アンドロイド夏目漱石先生兄弟機の「アンドロイド渋沢榮一・70歳」が一般公開されて「道徳経済合一説(論語と算盤説)」を肉声で聴くことができます。その志を繋ぐ「寺子屋・青淵(せいえん)塾」で毎週、小学生からベテランの方30名に書を教えています。

「残りの人生は、次代を担う若者たちを育成したい」と、昨年4月より週4日、埼玉県立総合教育センターで主任講師職として初任者、中堅教員、初任校長や書道教員研修などの講義・指導等を担当して後進の育成に励んでいます。また、毎週市内の私立高校の書道部の生徒たちの指導もして、様々な年齢層の若者たちと毎日楽しく交流をしています。

埼玉県書写書道教育連盟と埼玉県高等学校書道教育研究会の元会長・顧問をする中で、今年初めて「埼玉県硬筆中央展覧会」が中止となり、中止から始まる「埼玉県書きぞめ展覧会」は誌上展覧会として、どうにか実施したいと準備しているところ。

「人生に一花を咲かせよう」と、今年8月25日(31日)、埼玉県立近代美術館の第一展示室、壁面300メートルに号「信龍」として、大作三人書展をしようと気合を入れて準備をしていましたが、一年後の令和3年秋に順延としました。

新型コロナウイルス感染症は、私の携わる教育現場にも大きな影響を与え、防止対策に苦慮しています。すべての人が直面した試練として受け止め、共存しながら助け合い生き抜いていくしかありません。深谷の地・書展にお越しの際は、是非お声がけください。

コロナ禍に思う

大山由美子(文47)

「目は口ほどに物を言う」、「目に物を言わせる」など、言葉にしなくても目つきだけで相手に感情を伝えることができるということわざがある。「目を丸くする」、「目を三角にする」、「目を白黒させる」の表現からは、それぞれどのような感情が湧き、どのような様子なのか私達には理解できる。

人間の顔の中で一番顕著に感情が表われるのは口元で、感情を偽りにくいのが目元だと言われている。心理学の実験では、メールなどで使用される顔文字、いわゆる絵文字を見て、米国人は口元で、日本人は目元で感情を読みとる傾向があること、また別の研究ではヨーロッパの人々

も米国人と同様に、口元の動きを重視することがわかったらしい。意識的に口元は、一々二センチ位を動かせるが、目元は意思で動かせるか。試みてもわずか数ミリ程度しか動かさない。感情を表に出さないといわれている日本人にとっては、意思で動かすにくい目元に注目する方が相手の気持ちを読みとりやすいというのだろうか。

また、日常生活において、マスク着用が世界的に必須条件になつていくが、海外の方々がなじめないといわれるのは、感情を読みとるための口元が隠されることに原因があるのかもしれない。気候や風土、様々な環境の条件、着用の習慣があるのかなかという見方ではなく、心理学的な面から実験、研究分析した結果から、マスク着用注目してみるのも大変に興味深い。

「三密」の作法が世の中に浸透。人との距離の取り方に緊張感が走る。不安と不自由を抱えて暮らしている毎日だが、前向きな気持ちで少しでも明るく、そして一日も早く心から笑顔で過ごせる日が来ることを願う。(松苓会本部常任幹事)

「古閑裕而と二松學舎」
 甲子園の歌「栄冠は君に輝く」は古閑裕而作曲として夙に有名です。
 二松學舎の学生歌も、古閑裕而作曲(森本治吉元本学教授作詞)です。
 附属高校野球部の応援歌として、神宮球場で得点が入ると大合唱する。もちろん甲子園でも肩を組んで熱唱した記憶は新しい。

鶴学問の爽り



亀田一邦(文51)

不惑前でしょ
うか、本格的に
地方史の研究に
手を染めたの
は。以来、専門
を活かして幕末長州の漢学や医学に
的を絞り、日曜史家を楽しんでいま
す。

昨年末、久しぶりに本を出しまし
た。『久坂玄瑞全訳詩集』と申します。
私の本拠地は下関でして、幕末の話
題には事欠きません。高杉も久坂も
龍馬も、4か国の連合艦隊も幕府の
富士山丸も、みんなここで大暴れし
ました。

東行詩の愛好者は多いのですが、
「久坂詩のファンだ」という方には
なかなかお目にかかれませんが、玄瑞
の詩は本当に拙いのか？いえいえ、と
んでもない。むしろ高杉より上手な
のだと私は思いますよ。

ではなぜ注目されないのか？おそ
らく一番の理由は、すらすらと読めな
い所にあるようです。全集は訓読ナ
シ、訳ナシ。そのうえ誤植がいつぱ



い。これでは一般の方々を取り付く
島もありません。という訳で、「下手」
との評価が定着していたためではな
く、紹介の労を取る先達がいなかつ
たのが災いしたらしい。要するに厄
介な代物として敬遠されてしまった
んです。

そこで私どもがちよっと頑張っ
てみました。総ルビにするなど、でき
るだけ丁寧な仕事を心がけ、やっと
完成したのが、本邦初訳となる本書
です。共著者の林田愼之助先生と奮
闘すること6年。さすが松陰が惚れ
込んだ若者、久坂江月斎は実に強敵
でした。

高杉と久坂は中庸の道に外れた
「狂者」(果敢に行動する理想家)で
すが、こちらも「狂者」となって困
難な書物の刊行に挑み、何とか世に
出すことが叶いました。おまけに兄
玄機の詩文や医史料まで添えられ
たので大満足です。

学祖中洲師と松門の人々は縁が深
かった。高杉、久坂との関係はす
でに有名です。他に松陰の曾孫庫三は
二松學舎に学び、鳥取中学、横須賀
中等等の校長を歴任しましたし、山
県有朋の養嗣子伊三郎公爵もまた在
塾しておりました。

防長に生を受け、幕末維新史を研
究する私も、母校の縁の末端に連な
り、大きな学恩をこうむっているの
かも知れません。

「近況報告」



白濱富士夫(文54)

私は本学国文
科を卒業後、昭
和62年4月に地
元の私学佐賀女
子高等学校に赴
任し、定年の2年前でしたが、今年
の3月に退職をしました。この4月
からは佐賀星生学園という高等専修
学校に勤務しています。

佐賀女子高等学校では、図書や青
少年赤十字(ボランティア)の活動
そして卓球部の活動などを行いまし
た。クラス担任を外れることはほと
んどなく、3年の担任も数多くする
ことができました。33年間の在職中
に、いつも生徒のそばにいて、生徒
との関わりを持てたことで、教師と
して成長することができたと思っ
ています。

青少年赤十字の活動では、募金活
動・清掃活動など様々な活動を行
いましたが、道路の清掃活動で持ち帰
った落ち葉を利用して石焼いもをつ
くり、生徒とはしゃいだことはいい
思い出です。私は、卓球の経験は全
くなかったのですが、赴任と同時に
卓球部の顧問を任せました。当時
卓球部は休部状態でしたが、2人の
2年生の要望に応じて活動を再開。
この時から、退職の年までの33年間、
一途に卓球部の活動に携わってきま
した。部員が0になったり、1人し
かないような状況が、何度もあり

ましたが、何とか最後まで卓球部の
形を維持することができ、顧問とし
ての役割を十分に果たすことができ
ました。卓球部の部員にはいつも「部
活動を通して、多くのことを学び、
人から愛され、信頼される人間にな
ってほしい。」と伝えていました。「部
員が、将来幸せな人生が送れるよう
な卓球部の活動にしたい。」という
強い思いを抱き、部員と本気で真剣
に向き合い、活動できたことは、教
師としてかけがえのない経験となり
ました。

私は数年前に、「教師は、生徒の
存在があつてこそ教師としての営み
を送ることができるとだ。」という
ことに気づきました。生徒の明るい
笑顔に、元気な挨拶に、部活動や体
育祭などの学校行事で一生懸命に頑
張る姿に、力をもらい、辛いことも
乗り越えることができたのだと思
います。

現在勤務している佐賀星生学園
は、中学時に不登校であったり、自
閉症などの発達障害を有する生徒を
専門的に教育する学校です。私は前
任校で赴任当初から、継続して教育
相談活動に携わってききましたので、
その経験を活かしたいと思っていま
す。この学校でも卓球の活動を行っ
ています。卓球の練習で流す一粒一
粒の汗が、生徒たちの未来の礎にな
がってほしいという思いで、一緒
に練習に励んでいます。

学生会員だより

コロナ禍の学生会執行委員会の活動について

学生会長 北村あゆか
 新型コロナウイルス感染拡大により、4月4日に開催される予定であった新入生歓迎式典は中止。5月に中洲記念講堂で開催予定であった定期学生総会は延期。また、6月に開催予定であった九段祭POPは中止。このように、イベントが中止や延期になってしまいました。

このようなことになったのは4月上旬に緊急事態宣言が政府から出されたため、学校に立ち入ることができなくなりました。それにより学校の授業もオンラインになりました。通常なら教室で対面して会議などを行っていた学生会執行委員会の活動も、オンラインで会議を行わなければならなくなりました。学生会役員もオンラインに慣れているわけではなかったのLINE、Google Meet、Zoomなど様々試して話し合いを行いました



オンライン会議の様子

た。最初は役員の顔が見えないため会議にちゃんと参加しているのか、会議の内容が伝わっているのが不安でした。また、大学側とのやり取りも対面でなくメールのやり取りになりました。しかし、協力していただいた学生支援課の方のおかげで延期になってしまった定期学生総会を7月末にオンラインで開催いたしました。例年は、九段キャンパス1号館中洲記念講堂にて行いますが、今年度はオンラインで7月29日(水)から8月15日(土)の18日間開催いたしました。

オンライン授業など例年とは違う様式をとってしまつたこと、また準備に時間がかかり開催が遅くなつてしまったことお詫び申し上げます。



定期学生総会

今年度は、2019年学生会決算報告、2020年学生会予算案、2019年学生会執行委員会活動報告、2020年学生会執行委員会活動予定と、以上の4点の承認決議を行いました。オンライン総会では投票

票59名、委任状748名、参加合計807名でした。また学生総数2976名のうち、定足数である595名以上の参加により2020年度定期学生総会は成立し、全ての議案が賛成多数で可決されました。ご協力いただいた学生の皆様、本当にありがとうございます。今後は、皆様が喜んでいただけるようなイベントを開催する準備ができるよう、学生会執行委員会役員一同頑張っていきますので、お力添えいただけると嬉しいです。

(国際経営学科2年)

サークル紹介

ALIAS (エイアス)

提苗寧・河野真優子
 こんにちは、ダンスサークルALIASです。

ALIAS内では、新型コロナウイルスの影響を受けて、次のようなことがあります。



- ・活動の中止
 - ・新入生歓迎式典ステージの中止
 - ・外部イベントステージの出演辞退
 - ・学園祭ステージの中止
 - ・夏合宿の中止
- 2月に活動自粛の要請を受けてから、一度もメンバーで集まって踊ることができていない状況です。予定



していた多くのステージへの出演がなくなり、新入部員もなかなか確保できていません。

しかしそんな状況下ではあります。多くの人にALIASを知ってほしい、ALIASのダンスを見てほしいという思いから、SNSを中心にサークルのPR活動を行っていきます！

- ・サークルを紹介した説明会風動画の公開

- ・過去のステージ動画の公開

- ・ALIASの日常の練習風景を撮った動画の公開

- ・サークルメンバーが自宅で踊るダンスリレー

などです。特にダンスリレーについては、家の近くなどで軽く踊れるような短いダンスを踊って次の人に回すという企画ですが、何ヶ月も踊れずにいた身体を久しぶりに動かすことができると嬉しいです。新しく踊っている姿をSNSに載せることもできずにいたのを、ALIASを応援してくださっている方々にも、メンバーの楽しい姿をお見せできていると思います。みんな揃って踊ることとは長いことできていますが、それでもできる限りの活動がんばっています。応援よろしくお願いします!!

(堤茜寧 都市文化デザイン学科3年・河野真優子 国文学科3年)

松風短詩会

郡司和斗

二松学舎大学松風短詩会の代表を務めています。4年の郡司和斗です。いただいたテーマがコロナ禍におけるサークル活動ということで、春セメ中の当会の取組みについていくつかご紹介できればと思います。

松風短詩会は、一般的に「歌会」「句会」と呼ばれる、会員各自が自作の短歌、俳句を持ち寄って相互に批評し合う場の開催を中心に活動しています。例年では週に1回程度の



ペースで、5限後に2号館等に集まって活動してきました。本年度は新型コロナウイルスの感染防止を踏まえて、授業と同じようにリモートで歌会、句会を開催しています。活動にはWebexやSkypeを利用して

いますが、対面の歌会、句会と異なり、会話に時間差が生じることや、独り言を言っているような違和感があります。また、個々のデジタルデバイスやネット環境の差によって歌会、句会に参加できない等のハード面の制約があるのも否めないことです。チャット機能がメインの他アプリとの併用等も行いながら、可能な限り会員が参加しやすいように日々試行錯誤を繰り返しています。

一方で、完全リモートによって得た僥倖もあります。これまで地理的に合同開催が難しかった他大学と歌会、句会ができるようになりました。春セメ中では筑波大学や岐阜大学の学生と何度か活動を共にしましたが、普段とは違う刺激を多くいただきました。まして、会員にとっても良い経験になったと思います。また、もう一つの幸運として、そもそも当会の性質上、リモートでもそこまで活動に支障をきたさないことが挙げられます。体育会系サークル活動のよう

に他者と接触する必要はありませんし、文化系サークル部活動の中であつても、以前私が部長を務めていた写真部の撮影会のように外出する必要はありません。これは本当に利

運としか言えないです。

とりとめもなく書いてきました。少しでもこの文章が何かの役に立てば幸いです。もし活動に興味のある方がいましたら、ツイッターの方にDMをください。

(国際政治経済学科4年)

棋成会

岡部玲音

コロナ禍の影響によりキャンパスが封鎖され、例年通りの活動ができないため、現在は今までと大幅に内容を変更した活動を行っています。今までは毎週キャンパス内で活動日を決めて集まり練習対局を行っていましたが、インターネット上での練習対局がメインの活動となつています。また、不定期で学外の道場などに行く事も出来ないという毎年参加している学外の将棋大会なども全て中止になってしまい、活動の大幅な縮小ないし消滅を余儀なくされています。

しかし、この状況はデメリットだけではなくメリットもありました。



外出自粛で在宅時間が増えたことで、個人で将棋に向き合う時間が増え戦法研究などの時間が十分にとれたことや、オンライン授業の実施により比較的時間の余裕が生まれた為にインターネット上の練習時間が増えることになり、それぞれの課題や苦手の克服にじっくりと取り組むことができ、また、緊張感のある対局を行うことができるようになりました。特に我がサークルは構成員が少人数のためインターネット上の活動でもスムーズに連絡やコミュニケーションを取ることができました。普段の活動では練習対局が主になり戦法や棋譜の研究は疎かになっていましたが、インターネット上の練習では構成員みんなで一つの戦法について勉強したり、棋譜を並べて丁寧に対局を振り返るなどの練習を行うことができ、コロナ禍でも充実した活動をすることができました。

学外の大会が中止になったことで「今年は目先の棋力向上よりも、様々なことにチャレンジしてできる事を増やしていこう」とゆとりを持った活動計画を作ることができた点もコロナ禍での充実した活動につながったと考えています。

今後もキャンパスでの対局や学外の大会への出席、将棋道場への参加など今までのような活動ができるようになる事を信じ、棋力向上を目指し構成員一同頑張っていきます。

(国際政治経済学科2年)

改革する松苓会 募集 松苓会本部応援団

本部業務のお手伝いをお願いします。

〈事務、会報づくり、各種イベントや活動等の業務〉

ボランティアで交通費は支給

同窓会活動に、興味、意欲のある方は、お問い合わせ下さい。

問合せ先：松苓会事務局 〒102-8336 東京都千代田区三番町6-16
TEL 03-3261-7408/FAX 03-3261-8914/E-mail shourei@nishogakusha-u.ac.jp

「人材バンク」登録募集

あなたの力で、会員や大学を応援してください

会員(含学生)の求める機会に、会員の皆さまの智慧や技能を提供していただく事業を立ち上げました。登録をお願いします。

- | | |
|------|---|
| 内 容 | 講義・講話・講演・指導などの講師
ボランティアを基本とし、必要経費は主催者と相談により決定 |
| 登録方法 | 1 松苓会事務局に、メールで「人材バンク登録票の送信」を請求
2 登録票と要項をデータで受け取る
3 登録票に入力してメール添付にて返送(実践例があれば添付) |

登録申請・問い合わせ先 松苓会事務局 〒102-8336 東京都千代田区三番町6-16
TEL 03-3261-7408/FAX 03-3261-8914/E-mail shourei@nishogakusha-u.ac.jp

表紙写真募集

募集対象者 二松学舎大学学部在学生
募集写真 年2回発行(9月と3月)の松苓会報表紙掲載写真
会報表紙にふさわしいもの。ジャンルは問いません。
募集期間 9月発行号は8月末日、3月号は1月末日を締切日とします。
応募点数 各号とも一人1点
応募方法 写真データ送信先メールアドレスに、件名「松苓会報の表紙写真応募」と入力し、応募者の氏名、学年、学科、連絡先(電

話番号)と写真の簡単な説明(撮影場所等を含む)を明記し、「写真データ」を添えて送信してください。
*応募写真は未発表のものに限ります。
*応募写真は応募者本人のみに全ての権利(著作権を含みます)があるオリジナル作品に限ります。
*掲載写真撮影者には、記念品をお贈りします。
*作品の選考・掲載に関する問い合わせは受け付けません。あらかじめご了承ください。
*注意事項等詳細は、別途「募集要項」(学内メールで通知)で確認してください。
*送信先 E-mail shourei@nishogakusha-u.ac.jp

学生の活躍

郡司和斗さんの短歌、朝日新聞に掲載

国際政治経済学部4年次の郡司和斗さんの短歌「マヨネーズ色の祝日」8首が『朝日新聞』（2020年6月17日夕刊）「あるきだす言葉たち」に掲載されました。郡司さんは茨城県出身。「ルーズブリーフを空へと放つ」で第62回短歌研究新人賞受賞。「ニュースに母は」で第39回かりん賞受賞。学内の松風短詩会所属（本誌22頁参照）。

令和元年度学生褒賞 個人34人、2団体に

大学と大学父母会、松茶会が合同で顕彰している令和元年度の学生褒賞は、個人34人、2団体を表彰した。個人では、第26回都留市ふれあい全国俳句大会大賞受賞の松浦桜香さん、第62回短歌研究新人賞受賞の郡司和斗さん、第17回全日本学生落語選手権策伝大賞の審査員特別賞（準グランプリ）受賞の藤田想さん。他、第104書教展、第71回毎日書道展U23、第35回読書書法展、第7回葛飾柴又帝釈天全国書道コンクールなど各種の書道展で優秀な成績を取った学生24人、体育系では、第1回テックボール JAPAN CUP2019、東都大学軟式野球春季・秋季リーグ戦、第31回全日本テコンドー選手権大会、千葉県学生バドミントン秋季大会で活した学生合わせて7人。

団体は、第104回書教展で団体優秀賞を受けた書道部と千葉県学生バドミントン秋季選手権大会で女子団体Cリーグ準優勝のバドミントン部の2団体。

住所変更等があったら届け出を

住所変更や改姓等があった場合は、早めにメール、ハガキ、電話等で松茶会本部にお届けください。松茶会や大学からの案内（ホームカミングデーの案内や松茶会報の送付等）郵便物を確実にお届けしたいと思います。

平成13年度以前の卒業生の方へ 終身会員手続きのお願い

松茶会の運営資金は、ほとんどが終身会員の会費で賄われています。終身会費1万円を納入していただくと終身会員になり、会報の毎回送付やホームカミングデーの案内が毎年届くようになります。終身会員の手続きをとられるようお願いいたします。

寄付金のお願い

松茶会では、会の発展のために会員の皆様に寄付金のお願いをしています。松茶会の事業推進と財源確保のために、10千円で寄付金を募っています。ご協力をよろしくお願いいたします。

訃報

針原孝之名誉教授

令和2年3月4日逝去 享年79
針原名誉教授は、昭和48年4月に文学部専任講師として本学に着任。昭和51年4月助教、同59年4月教授。国文学科主任、文学部長、図書館長、副学長等の要職を務められ、また、学校法人の理事、評議員を務められた。平成23年3月定年により退職。
国文学演習、上代文学研究などの授業科目を担当された。

北村 博氏（文32）

令和2年8月24日逝去 享年79
北村氏は、昭和39年3月に本学文学部を卒業後、福島県磐城第一高等学校に勤務、平成13年3月同校を定年退職。その後も長く非常勤講師を務められた。

平成16年11月から現在に至るまで松茶会福島県支部長を務められた。

謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

表紙写真

今号の表紙は、国文学科2年の佐々木晴香さんの作品です。ご本人から「九段キャンパス1号館の窓から望む、大好きな夕焼けです。階によって見える景色が少しずつ違うため、夕焼けが綺麗な日は、いつも階段を駆け上がっています。一日の終わりに、こんな夕焼けを見ながら、『今日も素敵なお日だったな』と一人でゆっくり振り返ることができます」というコメントをいただきました。

編集後記

まずは、コロナ禍にもかかわらず玉稿を頂戴した関係諸氏に感謝申し上げます。
論語の一節に、「道に志し、徳に據り、仁に依り、藝に遊ぶ」とある。真の道に志し、己の身に修めた徳を抛り所とし、仁愛の情に依り添って、学芸の世界を楽しみながら、人生を歩むことです。君子の信条、心がけです。
ローマの哲人 セネカの言葉に「『徳』というものは、正しいこと、良いことを行おうとする意志である」とある。
コロナ禍は、人びとの心に知らぬ間にストレスを溜め込んでいます。今こそ己の徳を抛り所とし、知恵と工夫によってよりよく生きることが求められています。

二松學舎
松茶会報
No.64

創刊 昭和62年12月1日
発行 令和2年10月20日
編集 二松學舎松茶会
住所 〒102-8336
東京都千代田区三番町6-16
電話 03-3261-7408 FAX 03-3261-8914
振替口座 00180-5-160343（郵便局払込取扱票）
印刷 ㈱サンセイ



二松學舎大学(松茶会)
ホームページ www.nishogakusha-u.ac.jp
松茶会 E-mail shourei@nishogakusha-u.ac.jp